

被災地派遣レポート<第82回>

下水道局東部第二下水道事務所
中川水再生センター設備管理係 倉持昭人さん

勤務場所：宮城県中南部下水道事務所
派遣期間：平成 24 年4月1日～平成 25 年3月31日
担当業務：仙塩浄化センター災害復旧

宮城県土木部の地方機関、中南部下水道事務所で1年間、災害復興支援業務に従事してきました。

中南部下水道事務所は、県の中央部から南東部にわたる、4流域下水道を管轄する中核的な役割を担う下水道事務所で、宮城県で初めて建設された流域下水処理場、仙塩浄化センターに併設されています。

平成 24 年度は宮城県中南部下水道事務所の職員 25 人のほか、東京都、新潟県、石川県からの派遣職員と(財)宮城県下水道公社の職員も加わり、32 人で処理場の復旧に取り組みました。

当該事務所への災害復興支援は平成 23 年度から継続しており、私は主に、前任者が設計した仙塩浄化センターの汚泥処理設備関連電気設備工事の監督業務7件を担当しました。

私が担当した、仙塩浄化センターの汚泥処理施設は、砂押川と砂押貞山運河に挟まれた中洲に建設されているため、津波により大きな被害を受けています。

特に電気設備については、浸水した設備はもちろん、浸水していない設備についても飛沫を浴びることで腐食や絶縁低下が

発生し、多くの設備を更新することになりました。

また、ほとんどのケーブル類は、端末部分が浸水したことで被覆の中まで海水が侵入することで、再利用できない状態でした。

処理場全体の復旧計画に基づき、段階的に効率よく施工するための手順や時期を検討、調整しながら進めましたが、作業員や資材の不足による施工時期の見直しなど、日々変化



(出来高検査)

する状況のなかで行う工事の進行管理は、毎日が試行錯誤の連続でした。

いろいろな問題を乗り越え、約 2 年という短期間で復旧が完了できたことは、宮城県の職員をはじめ、各自治体からの派遣職員や施工業者など、関係者全員が一丸となって取り組んだ結果だと思えます。

今回、災害復興支援業務に参加することで、災害の予防や対応等について多くのことを学ぶことができましたが、それ以上に災害復旧という業務を通して、宮城県職員をはじめ多くの人たちと知り合えたことが、私にとっての財産だと思っています。



高圧配電盤（更新前）



高圧配電盤（更新後）

現在都では、首都直下地震や都市型集中豪雨の対策に直面していますが、今回の災害復興支援業務に参加することで得た知識が、少しでも活用できればと考えています。

また、宮城県をはじめとした東北沿岸部の被災地域のほとんどは、まだ復興途上であり、多くの被災者がそこで不自由な生活を強いられています。

復興に向けて頑張っている支援者の活躍により、一日も早く復興できることを願っています。